

産学官連携

「学習観光」事業



まず、講義により「高梁」を学習

この事業は、平成15年に岡山県や中四国産業活性化センター（広島市）などで構成する委員

会が実施した「高梁地域における学習観光事業の可能性調査」に基づくもの。この調査報告書では「城下町高梁とベンガラの町並み散策」「備中神楽鑑賞と神楽舞体験」「文化財修復についての総合学習講座」など20の具体的なプランが示されました。

この主な柱が「学習観光」です。学習観光とは、観光に生涯学習の要素を取り入れたもので、学ぶことによって、ただ観るだけの観光でなく、自分なりに何らかの目標をもって参加するものです。最近、中高年層を中心にニーズが高まっています。

「学習観光」事業

昨年6月、市は学校法人高梁学園、高梁商工会議所と産・学・官連携協力協定を結びました。協定に基づく事業の一つに「観光事業の活性化」があります。

これを受けて、市は昨年度、高梁学園に委託して事業実施計画を作成し、準備を進めてきました。この事業によって、大学等の知的財産を生かした新たな観光事業の創出と地域の活性化を図っていきます。



吉備国際大学
臼井洋輔 教授

高梁学習観光とは

学習形態においても、観光スタイルにおいても社会の急激な変化や指向に沿って変わってきています。

広い視座に立てば、館の中でするだけが「学習」ではなく、「観光」においても面的広がりやスピードで稼ぐ物見遊山だけで事が足りる時代ではなくなっています。双方が融合した時だけに得られる不思議な喜びや、知的探検で得られるワクワク・ドキドキの、まるで少年少女の時代に感じた自由に羽ばたいて心に深く残る空想や学びがあっても良いでしょう。そこから、個人や日本人のルネッサンスの「種」が芽を出すと思っています。心の中に一粒の種を蒔く観光。これが「高梁学習観光」です。



岡田卓雄さん(67)
久子さん(63)
(倉敷市)

倉敷市から参加した岡田卓雄さん・久子さんご夫妻にお話をお伺いしました。

「高梁を訪れるのは初めてではないですが、新聞で今回の企画を知り、歴史にも興味があって、いつもの観光とは一味違う体験をしてみたいと2人で申し込みました。知識を得ながら観てまわることは、やはりよいものでした」と卓雄さん。

また、久子さんは「ガイドさんには詳しく説明いただき、たまたま立ち寄った食堂でも高梁についていろいろと教えていただきました。まち全体で迎えてもらったようで嬉しかったです。別のプランがあれば、今後もぜひ参加してみたい」と話してくれました。

12月の吹屋ふるさと村ツアーへも2人で参加することにしています。



城の歴史や臥牛山の自然に触れる

第1弾「高梁」を知る 学習観光事業実施

10月28・29日の2日間の日程で、実際に観て学習する「高梁の歴史と文化に触れる旅」を行いました。

市内外から14人の参加があり、備中松山城を中心に高梁の歴史を鎌倉時代から戦国時代、幕末から明治に至るまでの変遷を講義と現地の見学を織り交ぜて学習しました。

1日目は、まず臼井洋輔・吉

「産業観光」も好評

高梁商工会議所が中心となって産・学・官で行った「産業観光」も好評でした。産業観光とは、地域の地場産業の魅力を観光資源として紹介するもの。

10月26日には、「まちなか産業観光」として、ひな人形や和菓子を製造販売する事業所や映画「男はつらいよ」のロケ地となった旅館など見学し、人形づくりなどを体験しました。

また、11月10日には「産学官連携コース」を実施。吉備国際大学文化財総合研究センターや酒造会社、吉備ケーブルテレビなどを巡るツアーが行われました。

両日合わせて、市内外から約40人の参加がありました。



ひな人形の製造を学ぶ参加者

次回は「吹屋」で開催

備国際大学教授が、約700年にわたる備中松山城の歴史や特徴などを中心に市の概要を解説。その後、松連寺、薬師院などの寺社、頼久寺庭園、石火矢町ふるさと村の武家屋敷など史跡巡りをしました。

2日目は、臥牛山に建つ同城へ徒歩で登り、通常の観光ではまず訪れない、下太鼓丸跡や大松山城跡などにも足を運び、中世から近世に至る城郭の変遷などを体感しました。

学習観光事業第2弾として12月9・10日、今度は吹屋で開催することになっています。

吹屋ふるさと村を中心に銅山やベンガラで栄えた高梁の産業を学習します。

豊富な観光資源を生かす

これまで、高梁には歴史・文化遺産、伝統行事や自然など豊富な観光資源がありながら、滞在型の観光につながっていませんでした。

学習観光事業は、まだ始まったばかりですが、今後は若者グループ、ファミリー層など幅広い層にも対応可能な学習観光のプランづくりを行い、充実を図っていきます。

■問い合わせ 企画課企画係
(TEL) 0209